

特 71
899

問易杉檜植樹法

安太郎著

非賣品

著述者藏版

301442-001-6

特71-899

問易杉檜植樹法

山内安太郎／編

M27.12

CCE-0001



71

899

安太郎著

(非賣品)

問
杉
檜
植
樹
法

著述者藏版

新發明改良

安本家 山内安太郎

兵庫縣丹波國水上市大路村之内栢野村三十九番地

杉檜苗木賣捌處



右杉檜種子親木ニ似ルキ人畜類ニ存ニ出トモ或老人ノ語キモ試
 作ニ艱苦スル下十數茲年ニ親木優劣ノ撰擇種實取入方栽培法等
 發明仕候通常ノ苗樹トハ其成育ノ速ナルヲ驚ク可シ之レ抽
 者積年ノ艱苦ヲ嘗テ試植スル所ナリ抑杉檜苗ナル植込後數十年
 ナ經テ其結果ヲ見者ナレバ今日信ヲ置キ下カレヌト雖モ乞フ
 多少夫論セテ御試植アツテ國利民福ヲ増進シ以テ其虛實ヲ確認
 セラレシムルハ即販賣期日ハ毎年十月ヨリ翌年三月マテ多分御
 入用之御方ニ御以テ御申込有之度荷送リ入愈道中三十日間ハ御
 請合運送可仕候尙此他諸樹苗共精々廉價ニ差上可申候

特別
899

◎杉檜苗植付之方法

- 第一 樹苗ハ舊十月ヨリ寒入迄ニ植込メハ成育スルコト早シ又都合ニヨリ翌年ノ春彼岸頃迄ニウエ込シテモ宜ロシ
- 第二 其植込ハ穴ヲ十分ニ堀リ其中へ木ノ葉及石ノ入ラサル様ニシ其ウエキ木ノ下ノ古根ヲシハノ新根ヲ四方ヘヒロケテナシメラシ其樹ノ面ヲ東南ヘ向ケテ植ユヘシ又平地ニテモ嶮岨ノ處ニテモ其木ヲ直線ニシテウエヘシ
- 第三 石多キ地及砂リ土ニハ杉ヲ植ヘ赤土及黒クマリコハ檜ヲウエルコト宜ロシトス
- 第四 右杉檜共反歩ニ最初一千二百本ヲ植エ込ミ十年目ニ三步ノ木ヲマサシ伐リ廿年目ニ又三步ノ木ヲマザシ伐リ即四歩ノ木ヲ育ツルコト宜ロシトス其四歩ノ木三十年目ニハ各二尺一寸廻リニ成長スル見込クラリ
- 第五 風雪ナトノ傷害ヲ防グニハ杉八歩ニヒノキ二歩ヲ混交シテウエルコトヨロシトス又時トシテ蝨虫ノ害ヲ蒙ルコトアリ斯ル時ニハ其穴ニ管ヲ以テ盤ヲ吹キコムヘシ

◎杉檜一年床苗作り方

- 第一 種子ハ親樹ヲ撰ミ秋ノ土用ニ入ルヲ待チテ其實ヲ採リ之ヲ七八歩ニヒワケ畝壹間床ニ杉ハ七勺檜ハ一合三勺位ニ蒔キ其發芽スルコト待チテ杉ハ凡ソ七百本檜ハ凡ソ千本位育テルコト
 - 第二 右種ハ翌年春彼岸前後ニ蒔クコト即其蒔方ハ十分床ヲタ、キシメ薄キ肥料ヲ施シ其上ニ種ヲ下シ后振土ヲマキ芽ヲ切ルマテ藁ニテフセルコト
 - 第三 已ニ發芽スレハ高サ二尺五六寸位ノ柵ヲ組ミ藁ニテ夏中覆ヲ爲シ五日毎ニ雜草ヲ抜キ去ルコト
 - 第四 肥料ハ前年ヨリ床土ヘ仕込ミ置キ舊五月中頃ト極日中トニ雨後ニ薄キケル(人糞)ヲ掛ルコト
 - 第五 其間夏中晴天續ニハ水ヲ撒キテ善ク土ヲ濕ヌコト
- ◎全二年三年生作り方
- 第一 右一年苗ヲ大小性質ニヨリ四等ニ仕分ケ根土ヲ致シ翌年ノ彼岸前後ニウヘ込ヘシ
 - 第二 床土ニハ十分肥ヲ仕込ミ冬鋤キ起シ置キ春畝ツケ床ヲナラシ穴

苗を廣く掘り苗の根を廣く植込よ。其後四五日之中ニ雨降らば其畝
間ノ溝へ水去注ぐヘシ

第三 二年生苗ハ壹反歩大ニ三万本中ニ四万本小ニ五万本下ハ八万
本位ノ割合ニテ植込ヨシ

第四 田ニ植込ミテ后ハ成育スルニ從テ土根をサス者故草取及谷播
等ニ注意スヘシ又時ニ心枯レノ出來ル者ナレハ其節ハ其カレ芽

第五 炎天續テハ絶對ニ水去注キ土壤ヲ乾燥セシメサル様注意スヘシ
五月中頃ヨリ八月彼農頃迄以雨降後直ニ肥料ヲ施スヘシ

又玉虫ガト虫ノ付ダレキハ晴天續キハ煤タルヲ施スヘシ又雨續キ
ハ石灰タルヲ施スヘシ

又玉虫ガト虫ノ付ダレキハ晴天續キハ煤タルヲ施スヘシ又雨續キ
ハ石灰タルヲ施スヘシ

又玉虫ガト虫ノ付ダレキハ晴天續キハ煤タルヲ施スヘシ又雨續キ
ハ石灰タルヲ施スヘシ

◎ 杉 檜 苗 植 付 期

緒 言

近來世の進歩と共に樹木は必用日増しに増加し人世の用途土木工事に
器具器械より家屋に至る迄森林産物に依りて作り殊に薪炭として消費
すること實に多額を占め且つ人口の増加に隨ひ使用乃量愈増加之山
林の土地を開墾して耕地となし森林の區域幾分か減らし加ふるは遷搬の
法益々進歩し遂に全く需用を充たす能はざるに至る之れは因て此れを
見れば日進の今日より方植木の急務中の急務なる事昔日の類よりあらす
是れ予の喟々を待さる處なり蓋し其地は適する樹種を撰て用材林薪炭
林の目的を定め植樹之國利民福を圖り給んことを植木者初心へ告る
以て緒言とす

◎ 杉 檜 苗 植 付 期

杉檜苗への込の期は毎歳十月より十二月中旬迄木葉のキハミてより落葉

の頃年中の最良期則冬期うへ込期より春期うへ込は三月上旬より四月中旬迄と併し五月中旬に植樹するも生育すれとも最良期よりうへ込しものど比較せは概して一ヶ年の差違を生し加之枯損多きものなり

◎苗木植込取扱方

春期の植込に際し苗木運搬の日數を経て根の乾燥したるときは荷造りを解き一枳づ、其根に水を注ぎ（フヨロ或ハ其儘根ヲ）（水ニヒタヌモ適宜也）克く燥きたる粉土を振りつけ根を一方へ揃えて蒔の類にて覆ひ置き而して植込に取掛るへし儲て又余り晴天續たるときうへ込めば苗木中は含む處の水分をうき土を吸収せられて是れが爲枯死とれを成るへく逆雨を待ちてうへ込で可なり檜木は殊更淺植の方生育速なり若し岩石地あれば少し石を取り除き苗木の根を四方に廣げ最近の處よりうへ込土を（小箕或ハフ）持寄り根の上を覆ひ置けば生育する者也杉木は檜木に反し少々深きへ

の方成木上真丸の本跡と也淺うるよせは一時の生育速よ見ゆるも風雪よ倒れ安く且つ又成木上丸る形よならぞ鈍角或は種々の形である者ありうへ込の際注意す可はうへ込む處の穴を十分よ掘り而してうへ付と真直よして其穴を填めす凹なりよして置くへま上より養分の液汁降下し此穴に留り生育を助けれをあり

◎植込疎密適否

抑も木の太跡を云へは陽木陰木の差あり先つ杉は陽木檜木は陰木と云て可なり杉は光線を享けざる處且つ又木陰けなどは萎縮して速よ生育せず檜木之よ反して生育するものあり然りと雖も余り疎よ植樹せば日光は木の根元と又は幹を熟どるか爲め枝葉四出きて幹跡短よして且矮あり其土地の便否と土質の良否とよより一定あらざれとも凡一反歩よ付密植は一千五百本又は一千二百本疎植は八九百本あり疎よ過き密

よ失せず適當を得るとさして樹冠善く揃ふ枝葉閉鎖して傘の如くよかき
 樹根を早燥せしめど其土の力らを増し益々榮て枝柯少く長く伸長し直
 幹の木を成立し是れを用材用ゆる時とまさ目眞直に通じ價格大よ高
 貴かりわまり疎植あるものは樹幹屈曲し支又は節多し用材とあり價格
 大よ劣れり例へば吉野熊野或は木曾山等各位見聞のとうり密植よて枝
 柯の閉鎖よ注意し漸々間出伐りをあし良材を出たせり先づ簡便近易と
 云へば最切密植よすれば手入方簡よして其生育上よ便あり漸く枝葉
 の閉鎖よ隨い優木を措き劣木を簡伐し空氣の流通宜しきを得て優木の
 速よ巨大とあるよと疑あし

◎苗木撰擇

杉よは黒杉赤杉あり(白杉ハサシキ苗)黒赤の價值よ差あること各位の
 知給ふ處よして今更言をまたす之れ其土性よよるの論あれ共植木の

◎土質

后ち生育中半途よして赤黒よ變更するものにあらと本來苗木撰擇の要
 茲にあり略陳せば松に黒松赤松五葉姫小あぞ栗の木カシの木カク木等
 薪炭材よはクヌキ是を皆種類多し就中杉檜の種類最多よ成木の優劣は
 種子の撰定よして獨どり苗木而已よあらず予樹種撰定よ困苦し種苗栽
 培するよと殆ど十數年彼の光陰矢の如きの語を感じ今一驚すべきは各
 所々よ予の種苗が成る葉長杉檜林の鬱鬱し間出伐の木材を見且つ尖は
 皆伐に係るものあは悉く赤杉よあり大よ驚愕し種子撰定の必要を憾
 じ且つ又此葉長杉檜他の種類よ優秀し成木の速よ幹牀及び皮はだの美
 よして木材赤色よして量目輕し斯良種を發見去年來經驗せし處あり
 聊吾か田へ水は嫌われ心試み培植あつて疑解わらん事を

檜木は乾燥と好み岩石交りの地よ適し杉は濕潤の地よ適する雖も其

大要よして雨露且又谷水の常よ降下し冷水淹滞すれど苗木の根逐ふ腐敗し安く平坦濕潤の地は水抜き溝を設くへし總て山地の木葉及び木根等の腐敗して其土地の天然含む處の質と相混し黒色の土性となり粘着肥土或は輕き肥土となり能く雨露の水分を含有し熱氣を受けず旱魃の害を免れ水分を掩留して容易よ蒸發せしめずして植物を生育する養土と其養分自然下方へ流れ下方の樹木は生育速に肥大とあり上方の木は疲短かり之れ養分に乏きと光線の遮段とよぐり上方は萎縮して生育遅鈍されど上方は少く密植よして枝葉の閉鎖すれば自然養分及び水分をたもち隨て植樹伸長肥大よ成木すれば徐々に間伐を初むべし

◎下 蒔 方
山林の施肥耕耘することおひ年壹回(秋)或は貳回(夏秋の)下草雜草竹篠等刈取り木の根際よ捨て置くべし壹度植込し后ちは肥料を用せされ

は下蒔方又と雜木陰翳の蒔拂よ注意して怠らされば成木速く良材を得らるへし最も此林業たるや他の作物と異なり數十年の後よ元利の收穫を見る物と雖も生性良きよ適植し早をものば貳拾年又は參拾年よ伐採を得られ遅きと四十年大木とせむ幾數十年斯く畜積方よ最良方便あると世人の嗜好する處なり

◎獸 害 防 禦
植込后時として兎獸頭よて害し多分喰荒し甚まきは殆ど皆無迄喰盡てどあり此害を防くよは雜草且つ又小芝等蒔倒し其儘置き而して植込をかし植たる木の元へ蒔りたる物を寄せ苗木を圍み覆ひ置けは彼の兎山野に栖む獸類中柔弱なる物と見え更に害せども且又雜草等なき處は春期發芽れ期を待て植込めは兎の害を少し春期植込よは燒拂植込は蒔拂より少し手数を省くよ雖も延焼恐れおれば容易に施行すへからず

◎ 枝 打 方

枝えだ卸おろるしうる込後杉木は拾ヶ年目檜木は先拾五ヶ年目少許の枝を打卸し後早き物の五ヶ年を経て再度の枝卸をかく枝の卸し方の枝の下方より少々切り土へより打切るあり卸したる跡を成るべく幹と平面よあるよふ丁寧まことに切り直し置けは打跡早く滑あめらよふればなり若し拾ヶ年迄おれは幹へ枝を矯たがめ縛しばり置けは木の生育よ害することおし此れを早く打卸し幹をして巨大あまあらしめんと思は大よ誤あやりなり木は根より雨露の液汁の養物を吸収し幹を経て枝を傳ひ葉よ幹はこひ葉の又雨露及空気中よ含蓄ひんちくせる養分を得て幹さへ下し根よ達し土中の養分と化合し幹さの皮肉へ上り陰陽の作用よ化いんやう成し木と也人世欠くへからざる要用に備を物おれみだりあやみ稀枝うすを切斷去て空氣中よある貴重なる無代價の肥料を棄をする勿なれ

◎ 林 仕 立 方

杉檜しのくたんじゆん各單おの純じゆんよ多く植込すれども土質の見立肝要あり土質よぐりては交せ植込の方より利あり如何とされを植込後年経るよ随まい檜よ優木を見形まの劣木多く又またの杉よ優ま檜まの事あり此場合よ至まれば劣木よを伐採して一單たんの純林じゆんりんとさし倍ばいて又同地所中よても檜木に適する場所幾分有り杉よ達する場所又幾分哉有て杉檜二種の一林とある事有り然る故よ混交こんこうよ植込付せは何れ哉一方の劣木れうぼくをまたしを兼て伐採いたし傍わがら幾分の用途を償ふ方經濟の便益べんえきからん哉と

以上略陳せし處予の聊經驗せし實業上の簡易近便の杉檜二種材林而已其他天然林の手入方及薪炭林の造り法方等數多有るも拙劣者の得て及ぶ處あらず斯る二種中よも漏脱せし事多し讀者之れを訂せよ

明治廿七年九月廿九日印刷
同 年十二月一日 發行

兵庫縣丹波國氷上郡大路村之内
栢野村三十九番地

編輯兼 發行人 山内安太郎

兵庫縣丹波國氷上郡栢原町之内
本町七拾貳番地

印刷所 廣運館活版所

全 町一番地 印刷人 岡林一三郎

